

ハイデルベルク教理問答説教

聖書箇所：エゼキエル書18章2～4；コリントへの信徒への手紙手紙一15章21～22

説教題：“突破口”

詩編歌

頌栄 - 詩編129編 1、2、3、4

説教の前 - 詩編134編 1、2、3

説教の後 - 詩編146編 1、3、5

12問：私たちが神様の正しい裁きによって、この世においても、永遠にも、^{けいばつ} 刑罰に値するものになったと言うのであれば、どのようにして、この^{けいばつ} 刑罰を免れ、ふたたび、神の恵みを得ることが出来るのでしょうか。

答：神は、ご自身の義が満たされる事を望んでおられます。それゆえ、私たちは、自分で^{つぐな} 償うか、それとも、他人に^{つぐな} 償ってもらうか、いずれにせよ、神の義に、完全な^{しほら} 支払いをしなければなりません。

13問：では、私たちは、自分で、^{しほら} 支払うことが出来るのでしょうか。

答：いいえ、決して、出来ません。私たちは、この^{ざいせき} 罪責を、日々、大きくするばかりです。

14問：なにか^{ひぞうぶつ} 被造物に過ぎないものが、私たちに代わって、^{しほら} 支払う事が出来るのでしょうか。

答：なにもものにも出来ません。

第一に、神は、人間が^お 負っている^{ざいせき} 罪責のゆえに、
他の^{ひぞうぶつ} 被造物を罰する事をお望みにはなりません。

第二に、どのような^{ひぞうぶつ} 被造物も罪に対する、神の永遠の怒りの^{おもに} 重荷に耐えることが出来ませんし、
罪から救うこともできないからです。

15問：それでは、私たちは、どのような^{ちゆうほうしや} 仲保者、救い主を求めなければなりませんか。

答：^{まこと} 真実の、正しい人間であり、しかも、すべての^{ひぞうぶつ} 被造物より強いお方、
^{どうじ} すなわち、同時に、^{まこと} 真正の神でもあられるお方です。

“突破口”

先週、私達は、神様の義と、私たちの^{ふじゆうじゆん} 不従順に関して学びました。聖書が記している、“神様の義”の意味は、罪に対して必ず怒りを^{あらわ} 現されるという事です。神様は、人間が^{ぜったい} 絶対に従う事が出来ない法律を制定されたのではありません。また、神様は、人間を完全に無能な存在として造られたのでもありませんでした。神様は人間を創造されて、彼らに、全ての律法を守ることが出来る、十分な力と知恵を与えて下さいました。しかし、人間は^{いしきでき} 意識的に、故意に神様が制定された法律を破壊したのです。それで、私達は次のようにいうことが出来ます。神様は正しいお方であり、人間は^{ふじゆうじゆん} 不従順な存在であると。

それで結論

そのように、神様の義に対して正しく理解し、人間が犯した罪が何であるかを、正しく理解しているならば、私たちは次のような結論に至ります。

一つ目の命題：“神様は正しいお方です。神様の義は、罪に対して必ず怒りを現されます。”

二つ目の命題：“私達は罪人です”

神様は罪に対して怒りを現されます。私達は罪人です。それでは結論は何でしょうか。

三つ目の命題：“神様は私たちに怒りを現されます。”

それで、“**私たちに救い主が必要**”という事になります。私達は、神様の怒りの下にいますので、その怒りから救い出して下さるお方が必要です。それで、問12は私たちに本当に大切な事を聞いています。

— “どのようにして、この刑罰を免れ”

— “再び、神の恵みを得ることが出来るのでしょうか。”

これは、神様の怒りの下で滅びる私たちに必要な質問であり、私たちが切に求めなければならない質問です。

人々の勘違い

そこで、まず、現代の人々が、いかに間違った考え方をしているかを確かめた後、本論に入りたいと思います。沢山の人々が、次のような批判の声をあげています。“牧師たちは福音を語らない”という事です。ある面では、事実です。現代の多くの牧師たちが、神様の福音より、どうすれば正しく生きるか、どうすれば成功するか、また、人生の苦難を乗り越える方法、または、心の傷が癒される方法などに集中しているのも事実です。

では、なぜ、そのような事になったのでしょうか。なぜ、多くの牧師が、福音より、他のことを伝え、また、信徒たちは、他のことを聞いて喜んでいるのでしょうか。単に、人々が墮落したからでしょうか。それとも、福音を宣べ伝える事自体が難しいので、そうなったのでしょうか。

私の答えは、語る牧師にも問題がありますが、聴く人々にも問題があると思います。聴く人々が、福音を退屈だと思込んでいるからです。人々はイエス・キリストと十字架の贖いの死が大切だと言っていますが、福音を退屈な内容だと思っています。そのように思っている理由は何ですか。私の答えは簡単です。“それは、すでに、知っている内容”だからです。すでに、知っている内容なので、いくら大事だと言われても、退屈で、面白くない内容のお話として聞いてしまいます。

では、なぜ、人々は、そのように思込込むようになったのでしょうか。色々な理由があると思いますが、私が思っている一番大きな理由は、**救いの道をあまりにも甘く考えている**からではないかなと思います。他の言葉で言い表すと、“救われるのがとても簡単な出来事”だと思うからです。

皆さん！誤解しないで下さい。イエス・キリストを信じる信仰によって救われるのは、真理であり、絶対変わらない事実です。

私が言いたのは、沢山の人々が“イエス・キリストの十字架の贖いの死を軽く思う”ということなのです。

私達は未信者の人々に出来るだけ福音を理解しやすく説明する為に、“イエス様を信じれば救われる”と言います。問題は、その後です。私たちの信仰が成長せず、そこで止まっている事です。キリスト教の救いの道は、本当に簡単です。イエス・キリストを信じる事です。しかし、私達は、成長する信仰生活をしなければなりません。私たちの信仰が成長するという意味は何でしょうか。信仰の成長とは、神様の救いのご計画とその摂理を聖書66巻を通してより深く、より広く弁える事です。私たちに對する神様の御心をより深く、より広く弁える事です。神様は、ご自身の救いのご計画を教えて下さる為に、私たちに聖書66巻を与えて下さいました。その意味は、イエス・キリストを信じる信仰によって救われた人々は、その救いの恵みを与えてくださった神様に感謝する信仰生活、成長する信仰生活を知る為に、計り知れない私たちに對する神様の救いのご計画をより深く弁える為に、聖書66巻を学ばなければならないという事です。

もし、私たちが、“イエス様を信じると救われる”事で、神様の御心を全部弁えていると言うならば、それは、聖書の教えを正しく理解していない事であり、信仰の成長もないという事でしょう。

それで、私達は、次のような質問に耳を傾けなければなりません。ハイデルベルク教理問答12問です。

- 私達は“どのようにして、この刑罰を免れ”
- 私達は“再び、神の恵みを得ることが出来るのでしょうか。”

もう一度申し上げます。答えだけを話すと簡単です。この質問は、“私たちの救いの道は、イエス・キリストである事”を悟らせる事です。当然イエス・キリストが福音です。答えだけいうと、本当に簡単です。イエス・キリストを信じる事です。

しかし、私達は、そこで満足せず、そこで止まらず、成長する信仰、前に前進する信仰を持たなければなりません。神様の栄光を現し、神様を喜ばせる信仰生活をする為に、私達は、私たちに救ってくださった神様の御心を、より深く弁えなければなりません。なぜなら、私たちに對する神様の救いのご計画は、私たちが全部理解することの出来ない、海より深く、この宇宙より広いからです。

1、一つ目の主題

一つ目の主題は、“神は、ご自身の義が満たされる事を望んでおられます。”ということなのです。他の言葉で言い表すと。“義は、必ず、ある行いに対して報償、あるいは代価を求めるということです。これは、問12の答えに記されています。“神は、ご自身の義が満たされる事を望んでおられます。それゆえ、私たちは、自分で償うか、それとも、他人に償ってもらうか、いずれにせよ、神の義に、完全な支払いをしなければなりません。”

これが一つ目の鍵です。私達は、今、“どのようにして、この刑罰を免れるか”、“再び、神の恵みを得ることが出来るのか。”という事を学んでいます。この質問を解決する為に、私たちが、まず、覚えなければならない事は、“神様の義は必ず代価を望んでいる事”です。言い換えれば、“神様は罪に対して、相応の代価を要求される”という事です。

この事実を確かにする事が大切です。先月、私達は、私たちが落ちた状態じょうたいがどういう事であるかを学びました。私達は、故意こいに犯した罪の為に、滅びる存在ほろになった事を学びました。また、神様は、必ず、原罪、現行罪しんぼんに対して怒りを現される事を学びました。そこで、私達は次のような事を弁えなければなりません。審判を行われる神様は、何を、私たちに望んでおられるのかという事です。“審判を行われる神様の義が、私たちに何を望んでいるのか”という事です。

神様の義とは何ですか？神様の義は、“罪に対して相応そうおうの代価だいか”、すなわち、“罪に対して裁きを加減かげんなく行われる”事です。

次のような疑問を抱いている方がいるかも知れません。“罪に対して裁きを行う事が、なぜ、そんなに大事であるのか？ “裁かずに赦してく下さる事は出来ないのか？”しかし、私たちは、次のような事を、確かに、弁えなければなりません。神様が罪に対して、裁きを行われるのは、神様が、誰かをいじめて、懲らしめる事を楽しむ残酷な神であるからではありません。むしろ、聖書は私たちに次のように教えています。テモテへの手紙一2章4節です。

“4 神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。”

エゼキエル書18章23節です。

“23 わたしは悪人あくにんの死を喜ぶだろうか、と主なる神は言われる。彼がその道から立ち帰ることによって、生きることを喜ばないだろうか。”

聖書が教えている神様は、人を破滅はめつさせる神ではありません。また、罪人を裁くことを楽しむ神でもありません。神様が罪人を裁くという意味は、罪に対してご自身の怒りを表すことであり、それは、神様が罪をどれほど憎まれているかを示すことです。すなわち、神様は、罪と共におられること自体が出来ないお方であり、全ての人々の罪がご自身のみ前で精算せいざんされることを望む完全な義に満たされているお方です。

2、全体のあらすじ

私達は一つ目の主題を学びました。“神様の義は、必ず、罪に対して怒りを表される事”です。それは、私たちを二つ目の主題に導いてくれます。“私の罪は重すぎる。神様は私たちの罪に対して必ず裁きを行われる。神様の義が求める事を満たないと、私達は滅ほろぼされます。”と学びました。その後、私達は次のような質問をしなければなりません。では、突破とっぱこう口はなんですか？という事です。私達は、神様の義によって行われる審判から、どうすれば免まぬがれる事が出来ますか。

ハイデルベルク教理問答は、その答えを切に探している人々の姿を二つに分けて紹介しょうかいしています。これが二つ目と三つ目の主題です。二つ目の主題は、問13の答えにあります。また、三つ目の主題は問14の答えにあります。

13の問は、“そうです。私は生きています。私が背負っている重い重荷おもにから自由になりたいです。では、私が何をすれば良いのですか？”です。二つ目の主題は、“私は、私が犯した罪の為に何をすれば良いのか”です。

そして、三つ目の主題は、14問に記されています。“私は、私が犯した罪から自由になる為に何も出来ないというならば、**他の被造物が私の代わりになる事が出来る**のではないのか。”という事です。

ハイデルベルグ教理問答は、本当に論理的です。ハイデルベルグ教理問答を読むと私たちが今まで抱いている全ての疑問と答えを明確に弁える事が出来ます。今日学ぶ主題も同じです。

質問；一 私達は“どのようにして、この刑罰を免れ、再び、神の恵みを得ることが出来るのでしょうか”

一つ目の主題は、神様は義に満たされておられるお方なので、罪に対する代価を求められる事です。

二つ目の主題は、私達はその代価のために何が出来るのか？

三つ目の主題は、他の被造物が私達の代わりに何が出来るか？

3、二つ目の主題。

では、二つ目の主題の答えから学びます。“それでは、私達は、私たちが犯した罪に対して、何が出来るのか？”、その質問に対する答えは何ですか。答えは、明らかです。“いいえ、私達に出来る事は、何一つありません。”です。

また、そこに加えられている答えがもう一つあります。“私たちは、この罪責を、日々、大きくするばかりです。”私達は自分で解決する事も出来ない、また、私たちが犯した罪に加えられて罪責をもっと大きくするばかりです。ある面では、私達を絶望させる答えだと思います。

実は、大勢の人々がその答えを探す為に、代価の問題を解決する為に、心を尽くしました。人々は、言いました。“神様が罪に対して必ず審判を行なうならば、その罪を解決したら良いのではないのか”と。**歴史において、人々が試みたことの中で、一番代表的なことが“善を沢山行う”事**です。大勢の人々が、自分が犯した罪と同じく善を行えば、自分の罪が消え去ると思込みました。しかし、どうですか。

1) 私たちが1日行う善によって、私たちが犯した罪は全部消え去るのでしょうか。そうではありません。私たちがいくら善を積み重ねても、私たちが犯した罪と悪は、そのまま積み重ねているだけです。**仏教は次のように教えます。“善が悪を取り除く”**と。しかし、善が悪と罪を取り除くことは出来ません。私たちが、いくら、善を積み重ねても、決して、悪を取り除くことは出来ません。この世で、沢山の善を行なった人でさえ、彼が生まれてから死ぬ時まで犯した罪は、そのまま存在します。私が人を殺して、その罪から自由になる為に、山のように高く善を行いました。私が積み重ねた善で殺人という罪から自由になる事が出来るのでしょうか。

罪の結果と善を積み重ねることは別の事です。善が罪を取り除くと、誰が主張し、また、誰がそれを定めたのでしょうか。**それは、単に、そのように信じたいという、人間の嘘に過ぎません。**なぜなら、神様の義がそれを認めていないからです。

2) いくら善を積み重ねている人でさえ、罪を犯しているのも事実です。完全に善だけを行なっている人はいません。

自分の行いによって自分の救いを成し遂げようとする全ての人々の試みは、失敗するしかありません。皆さん！ 聖書の教えに耳を傾けてください。ローマの信徒への手紙2章12節です。

“^{りつぽう}12 律法を知らないで罪を犯した者は皆、この律法と関係なく滅び、また、律法の下^{もと}にあつて罪を犯した者は皆、律法によって裁かれます。”

それは、いくら善を行なっても神様の^{しんぼん}審判の下にいるしかないという意味です。それに加えて、私たちが犯した罪に対して、自ら、罰を受けたとしても、それを神様の義の^{たいが}対価にする事は出来ません。これに対してウルシヌスは次のように説明しました。

私たちは、私たちが犯した罪に対して、^{けいばつ}刑罰を受けたとして、それを、神様の義の代価^{あたい}にすることは出来ません。私たちの罪責^{ざいせき}は無^む限^{げん}なので、私達は、無限の刑罰、永遠の裁きを受けるに値します。私たち人間は、いつも、神様の義に対して、代価^{だいか}を支払う為に何かを試みますが、人間の行いは、それが人間の完全な善であるように見られても、無駄^{むだ}なことになります。なぜなら、人間は生まれながら善を行う事が出来ない罪人であるからです。¹

それで、二つ目の主題である、“神様の裁き^{まぬが}を免れる為に、私に出来ることは何ですか？”という質問の答えは、一つしかありません。”何も出きません。”

4、三つ目の主題

そこで、私たちは、自分で、支払うことが出来ないというならば、何か他の被造物が私の代わりになる事が出来るのではないのかという質問がでてきます。

このように質問する人間の願は必死ですが、ハイデルベルク教理問答の答えは簡潔で、^{かんけつ}断固^{だんこ}なものです。¹ 4問の答えは二つに分けて記されています。

第一に、神は、人間が負っている^{ざいせき}罪責^{のぞ}のゆえに、
他の被造物を罰する事をお望みにはなりません。

第二に、どのような被造物も罪に対する、神の永遠の怒りの^{おもに}重荷^{おもに}に耐えることが出来ませんし、罪から救うこともできないからです。

1) 一つ目の答えは、神様の義は、他の被造物が、人の代わりに、罰を受けるのを、望まないという事です。エゼキエル書18章4節を見ましょう。

“^{どうよう}4 すべての命はわたしのものである。父の命も子の命も、同様にわたしのものである。罪を犯した者、その人が死ぬ。”

神様の義が願っているのは、“罪を犯した者、その人が死ぬ”という事です。それで、人間は自分が犯した罪を他の被造物に^{ひどうぶつ}転嫁^{てんか}する事は出来ません。

¹ ウルシヌス、『ハイデルベルク教理問答解説』

神様の義が望むのは、その罪を犯した人が償う事です。

2) 二つ目の答えは、この世の全ての被造物には、私たちの罪責を背負う資格や能力がないということです。神様はこの世を創造されて、最後に人を造られて、その人に世の統治権を与えてくださいました。

創世記1章28節

“28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」”

また、全ての統治権をもっている人が墮落してしまったので、この世も共に墮落してしまいました。聖書はそれを、“茨とあざみを生えいでさせ”という言葉で語っています。創世記3章18節です。

8 お前に対して／土は茨とあざみを生えいでさせる／野の草を食べようとするお前に。

それだけではありません。人の墮落によって“土は呪われるもの”になりました。創世記3章17節です。

17 神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い／取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。

ローマの信徒へ手紙はそのことを次のように記しています。ローマの信徒への手紙8章22節です。

22 被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。

それらの聖書箇所は、この世の全てのものが人間の墮落と関係がある事を示しています。人間の墮落は、全ての地、すなわち、全ての被造物に呪いを招きました。この世の統治者である人間の墮落によって、この世の全てのものが罪に襲われました。そのような状況の中で、私達はどのような被造物に私たちの罪の代価を背負うようにする事が出来るのでしょうか。全てのものが罪の下にありますので、この世のものは、人間の罪を、人間の代わりに。背負う事が絶対出来ません。

それでは、

それで、私達は私たちが犯した罪を解決する方法がこの世には全くないという事を弁えなければなりません。まるで、四方が冷たい鉄の壁に囲まれていることと全く同じです。これが、罪に対する神様の怒りの下にいる私たちの姿です。神様の義は、私たちが、あらゆる方法を使っても私たちが犯した罪の対価になる事ができないと語っています。それで、私達は、その全ての状況を一回で、解決ができる救い主を探さなければなりません。その答えは、問15の答えに記されています。それは次回に学ぶ内容です。

今日、私達は、“私たちの悲惨と神様の義”という主題から始まって、“なにをしても、神様の怒りから免れる事が出来ない事を学びました。また、この世の被造物が私たちの罪の代価になる事も出来ない事を学びました。

私たちが続けて学んでいる事実ですが、私たちが、そのような事実を学ばばれ学ぶほど、キリストに向かう私達の^{かわ}渴きは、どんどん強くなります。まるで、^{さばく}砂漠で道を失った人が、^{のど}喉が渴いて、水を切に探すことと同じです。

私達は今日の御言葉を通して、救いに至る為に、私たちに出来る事は一つもない事を学びました。この世の何ものも、私たちが救いの道に至るように助ける事が出来ない事も学びました。そのような絶望の中にある私達に、希望の光を照らして下さる為に、イエス・キリストがこの世に来られたのです。これがどれほど大きな恵みなのでしょうか。どれほど嬉しいお知らせでしょうか。